令和５年度　入学試験問題　小論文（国際地域学科）出題意図と解答例

〈出題意図〉

問題は〈問題文〉と〈資料〉によって構成されている。

〈問題文〉は，子どもの主体性を他者との関わりの中で捉える必要があること，主体性には他者との関係性の中で「してもらう・する・してあげる・させてあげる」といった四つのかたち（ステップ）があること，そしてそれらが直線的に変化していくのではなく「ふみなおす」ものであることを平易な文章で論じている。また，〈資料〉は小学校での理科の授業の様子を教師の働きかけと子どもの反応を中心に，簡明かつ具体的に述べている。

〈問題文〉と〈資料〉で述べられている内容は，初等教育に関する専門的知識と現代社会における子どもの教育問題について考える態度を身につけさせようとする，函館校国際地域学科地域教育専攻の趣旨と合致する。

本問題が，受験生にとって，子ども理解と授業とを結びつけて考えることの大切さを考えるきっかけになることが期待される。

【設問１】

〈問題文〉の下線部(A)「人間の自由の本質が，他者を介した自由であること」を，「人称的・役割的な関係」もしくは「人称的・役割的世界」という語を用いて説明しなさい。ただし，本文中の赤ちゃんの例に基づいて 151 字以上 200 字以内で述べること。　　(150 点)

〈解答例〉

赤ちゃんは，母親との力加減を絶妙のバランスで交替して，うまくお座りすることで心地よさを得る。うまくお座りできるのは，赤ちゃんが自分と母親の人称的・役割的な関係を把握して，身体的な対話が実現しているからである。つまり，赤ちゃんは母親を媒介にして自由を得たことになる。このように，人間の自由の本質は他者を介した自由と言える。

(160 字)

【設問２】

〈問題文〉が論じる「主体性」をふまえて，〈資料〉の授業における「きあら君の主体性」と「実験，議論の中で予想を変えた児童の主体性」について，具体的な行動と関連付けて，それぞれ説明しなさい。さらに，イセ先生が「主体性」を育てるために，この授業ではどのような工夫をしているか二つ挙げ，そしてそれがなぜ「主体性」を育てることになると考えるか，あわせて601字以上700字以内で説明しなさい。

(250点)

〈解答例〉

主体性には「する」「してもらう」「してあげる」「させてあげる」の四つの段階がある。

きあら君が，「コップの中がからっぽになる」という意見を選ぶのは，「する」の段階である。また，きあら君が自分の考えを力強く発表することでクラスの人の考えに影響を与え，さらにきあら君の意見がクラスのたくさんの人に受け入れられたのは，他者へ「してあげる」の段階になる。

意見を変えた児童は，きあら君の説明によって自分の意見を変えることになったのだから，これは「してもらう」の段階である。同時に，きあら君の意見をもとに最初の選択肢を自ら変更したのだから，「する」の段階とも言える。

イセ先生の工夫は，まず，いくつかの選択肢から答えを選ぶように質問していることである。選択肢が用意されていることで，子どもたちの「する」がやりやすくなる。もしも選択肢がなければ，答えることができない子どもがいたかもしれない。そのような子どもは，自らの考えを示すといった「する」の段階にはならない。その意味からも，多くの子どもが「する」の段階になることを実現できるようになっている。次に，きあら君の意見の後に，「予想を変える人はいますか？」と言ったことである。そのことによって，子どもたちが一度考えた答えを変えること，つまり「する」がやりやすくなっている。また，イセ先生のこの発言は，きあら君の立場では「してあげる」を，意見を変えた子どもたちの立場では「してもらう」をやりやすくしていると言える。

(670字)